

指導の実際 1 (授業展開案 1) 「相手や目的に応じて書こう」

1 具体的な指導のアイデア
それぞれの過程で特に有効だった手立てについて詳細を説明しています。



過程	指導のアイデア - 手順、留意点、資料と資料活用上の留意点等
見通しをもつ	<p>アンケート結果の利用</p> <p>単元に入る直前に事前アンケートを実施する。アンケートの結果を集計し、円グラフにする。グラフ化したものをまとめ、拡大して提示する。クラスの傾向を確認し、自分のアンケートの記述内容を確認させる。グラフで確認したクラスの傾向と自分の書いたアンケートの内容を基に、単元で身に付けたい力を考えさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="255 627 686 940"> </div> <div data-bbox="702 604 1436 929"> <p>生徒に提示するときには、アンケート項目をキーワード化して示しました。生徒は、その項目がどんな力について問われているものなのか理解でき、自分が単元で身に付けたい力を考えさせるのに有効でした。</p> <p>割合が分かりやすいので、提示には円グラフが適していると思われます。拡大して提示することが難しい場合は、印刷して配布しても同様の活動ができます。</p> </div> </div>
	<p>具体的なモデルやモデルとなる活動の提示</p> <p>電子黒板でリーフレットのモデルを提示し、基本的な書き方の手順や表現の工夫(Q & Aや図式化、グラフ化)等について説明する。情報の探し方、抜き出し方を例を示しながら説明する。抜き出した情報の整理の仕方(要約の手順)を具体的にやってみせながら確認する。例文を使って、自分で要約をさせてみる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="255 1164 798 1668"> <p>表現の工夫</p> <p>生徒にも同じリーフレットモデルを印刷して持たせておき、気付きを記入させておくと、生徒が作業するときに参考にできて便利です。</p> </div> <div data-bbox="813 1164 1404 1668"> <p>要約の仕方</p> <p>一度要約の手順を視覚的にとらえさせ、自分でも練習させました。電子黒板や提示装置がない場合は、情報源となる文章を拡大して提示します。</p> </div> </div>
身に付ける 習得 活用	<p>スモールステップによる学習活動</p> <p>情報源となる資料(「ハチドリ不思議」)から、必要な情報を抜き出す。(ワークシートに色分けをする。) ワークシート 抜き出した情報を整理する。(大きさや色の違う付せんを使って、情報の分類と選択、内容の要約をする。) ワークシート リーフレットの紙面構成をする。(付せんで動かして相手に分かりやすい構成を考える。) ワークシート 下書きをする。 リーフレット 清書をする。 リーフレット 自己及び相互評価をする。(意見の交流を行う。) 評価表・リーフレット 加筆修正を行う。 リーフレット</p>



生徒は、導入時に書き方の手順を学んでいます。その手順を再度確認させてからリーフレットの作成に入らせました。基本的には、生徒それぞれのペースで活動させましたが、活動の次のステップに入るときには、全体で活動の流れを確認する時間を取りました。活動の早い生徒には、自分の作業の振り返りの時間、時間が掛かっている生徒には、活動への不安を和らげる時間となり、有効でした。教師にとっても、作業の進捗を確認することができ、個別の対応ができるので効果的です。



活動の手順については、最初に全体で確認をした後、黒板に流れが分かりやすいように示しておきました。生徒は、色や形の違う付せんを、情報の種類や長さごとに分けて使うなどの工夫をしていました。付せんを使うことで、紙面構成を何度もやり直すことができるので、生徒は考えをまとめながら作業することができていました。

振り返る

交流による自己及び相互評価

書き上げたリーフレットを自己評価して、評価表に記入させる。工夫した点を中心に、リーフレットを紹介し合わせる。友達のリーフレットを、評価の観点に照らし合わせて評価させる。友達のリーフレットのよいところをピンクの付せんに書かせ、アドバイスは青の付せんに書かせて本人に渡させる。友達のリーフレットを見て、自分のリーフレットに生かしたいと思ったところを評価表に記入させる。友達からもらった評価を参考にさせ、自分のリーフレットの改善点を評価表に記入させる。



評価表の使い方については、Web で公開している「教師用補助資料」を参考にしてください。

交流の手順については、黒板に流れが分かりやすいように示しておきます。(板書例参照)教師は、生徒が評価の観点に沿った意見を書いているかに注意して助言を行います。

板書例 (7 / 8時の板書)

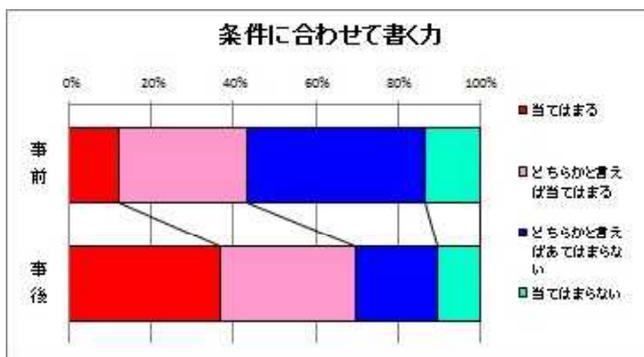
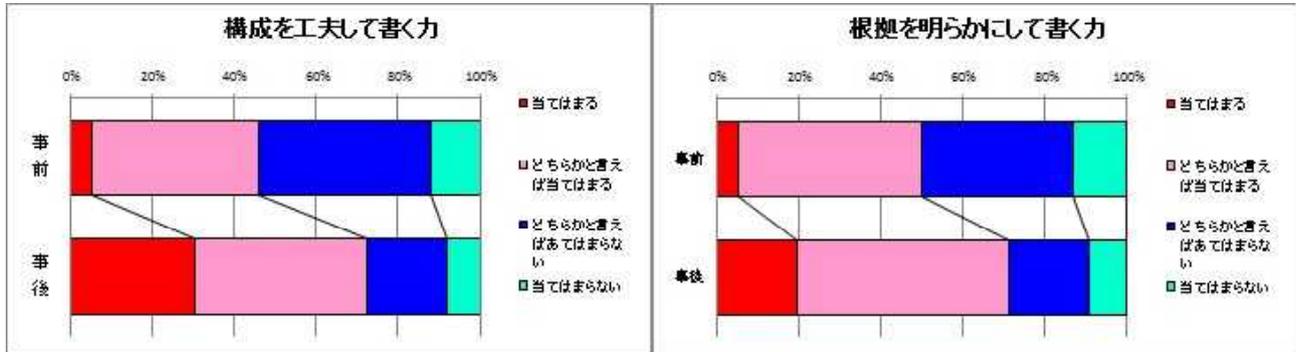
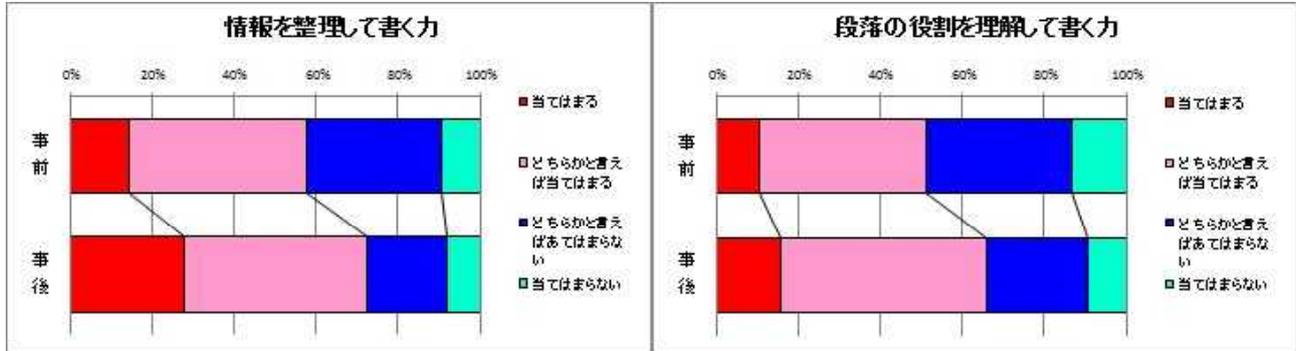


2 生徒の変容

1 アンケート結果より

- 実際のアンケートでは、新学習指導要領の指導事項を基に、10項目でアンケートを実施しました。本単元では、「相手や目的に応じて書く力を身に付けさせる」というねらいを達成するために、書くことの指導事項「構成」、指導事項「推敲」に指導の重点を置いています。そこで、その指導事項に関わるアンケート項目の割合を増やして作成しました。
- すべての項目で、事前よりも事後の方が「～することができる(分かる)」と答える生徒の割合が増えました。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりです。
(上のグラフが事前、下のグラフが事後のアンケートの集計結果を示しています。)

〔アンケートの集計結果〕



〔考察〕

- アンケート結果から、情報を整理する力や紙面構成を工夫して書く力、相手や目的に応じて書く力等、単元のねらいにつながる項目において、意識化できた生徒がかなりの割合で増えたことがわかります。本単元の学習を通して、生徒が必要な情報を取り出し、整理して、相手や目的に応じた書き方で書くために必要な知識・技能を習得したことがうかがえます。
- ここに示した項目以外では、特に交流してよりよい内容に書き直す力が身に付いたと多くの生徒が意識していました。

2 生徒の感想より(抜粋)

- このリーフレットを作ってみて、読む人の立場になって「どうしたら分かりやすいだろう」と相手の気持ちになって考えることができた。書き方も分かったし、表現の工夫もたくさん知ることができ、これからいろいろなことに生かしていきたいと思った。
- 長い文章を短く分かりやすくまとめ、人に興味をもってもらうように書くのは難しかったが、少しその方法が分かったのでよかった。キャッチコピーの大切さや難しい言葉を使わず、分かりやすく表現する方法は、最初は何も分からなかったが、授業を受けていくうちに分かってきて、できるようになっていったのでよかったと思う。
- 人に分かってもらうことを意識して内容紹介のリーフレットを書いたが、書きながら「ハチドリはこんな生き物なんだ」ということを学ぶことができた。見やすく表現したり、分かりやすく文章をまとめたりできるようになって、書く力が身に付いたと思う。
- 自分が身に付けた力が自分の知らないうちに付いていてよかったです。これから身に付いた力を生かして勉強していきたいと思えます。
- 6年生向けにするために、言葉づかいに注意して書いたり、図やイラストなどを使ったりしていくと分かりやすくなるということが分かった。学んだことをいろいろなことに使っていこうと思った。
- 情報を整理して、文を短くして分かりやすく書くことをがんばった。「ハチドリの不思議」の情報を理解して、まとめて書くことができた。

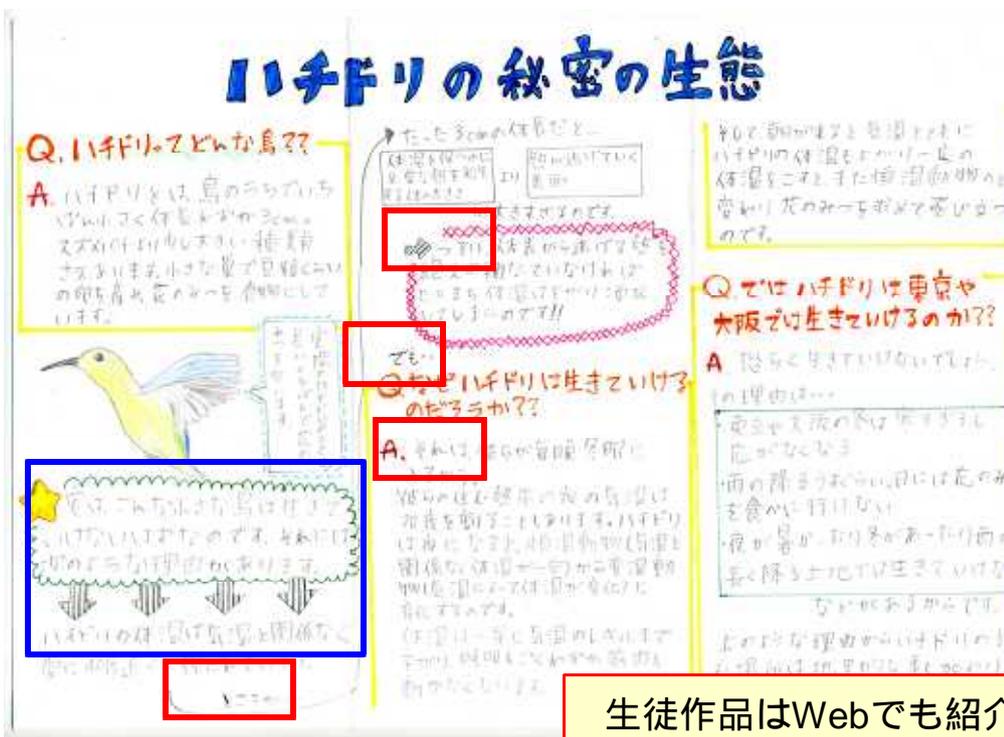
3 生徒作品より



表現の工夫をうまく取り入れている作品例

- 〔生徒の工夫〕
- 興味を引くキャッチコピー
- イラストの活用
- Q & A方式
- 内容を図式化
- 数値をグラフ化

紙面構成をした時点では文章表現ばかりだった生徒だが、構成を何度もやり直して前述の～工夫を取り入れた作品を作成した。



相手が読みやすい文章でまとめた作品例

- 〔生徒の工夫〕
- 適切な指示語や接続語の使用

言葉選びや文末表現の工夫

小学6年生向けであることを考えて、難しい言葉を避け、文末表現を敬体で書いたり、指示語や接続語を適切に用いて、読みやすい文章になるように工夫して書いている。

生徒作品はWebでも紹介しています。

3 指導者の考察

- 書くことについては苦手意識をもっている生徒が多かったが、活動の見通しをもたせ、補助資料等の手立てを充実させることで、最後まで意欲的に活動していた。授業後の意識調査でも、力が身に付いたと意識している生徒が増えており、主体的な学習態度の育成につながる学習活動を行うことができたと考えてよい。
- 相手や目的に応じて書くために必要な知識・技能はどんなもので、自分が伝えたいことを相手に分かるように伝えるためにどんな工夫をすればよいのかを生徒に知らせるという単元のねらいは達成できたと思う。ただ、身に付けた知識・技能を自分の思うように使って作品を書くところまでには至っていないので、習得した知識・技能を使って活動する経験を増やすことを考える必要がある。
- 今回は、課題設定や情報収集の部分を簡略化するために、説明的な文章を情報源として活用したが、「書くこと」の力を伸ばすには、文章ではない他の題材で単元を構成することも考えられる。また、「読むこと」の力を伸ばすために、言語活動としてリーフレットの一部を書き入れる活動を位置付けて単元を構成することも可能である。